

## 結研 10 ヶ年間の功績

京都大学結核研究所前所長 服部峻治郎  
現 京 都 大 学 長

京大結核研究所の10年は戦争と敗戦後の悲惨な状態下の10年で、随分苦しい10年でした。まだ借家住いでありまして、丁度近頃の日本の縮図の様な研究所であります。尤もこの研究所が日本で最初に生まれたという事は、随分有意義な事でありまして、これは諸先輩の並み並みならぬ努力と先見の明の賜であります。これが今日迄何とか運営されて来たという蔭には大学当局は素よりであります。特に京大附属病院の援助が非常に力があるのであります。この研究所は京大病院におんぶしてもらっております。建物も貸してくれ、患者の薬品も食事も全部大学病院のご厄介になっております。この点病院に対して厚く感謝しております。

今迄言いました事は、私が元所長としてのお礼の言葉であります。これから第三者として見た結核研究所の10ヶ年間の功績について申します。この結核研究所は戦争と同時に生まれまして、凡ての設備が不完全で10年経つても外観は殆んど変わらない。所が、余り立派な研究所からは良い仕事は出るもんぢやないという事がよく言われます。この点から言うところの結核研究所は理想的に恵まれた存在であり、これは日本に対して感謝しなければならないと思う。然しこれは物の一面を言つたもので研究の成果は人にあるという意味でありまして、幸いこの研究所では、始めから所員6名(最近7名になりましたが)、夫々其の途の専門家、熱心な勝れた研究家でありまして、これ等所員が沢山の研究者助手と協力して研究、精進された結果といたしまして、今日の成果を産んだのであります。

結核というものを世間一般の人に迄もしみ直らせた上にも役立つています。その一つの証拠には今から14,5年前には結核の学会なんか30人も人が集まれば良い方でありました。所が今日のこの会場は700人以上の人が集まつた。これだけでも、結核について世人の認識が深くなつた事を示しております。その一翼を担っているのもこの結核研究所であります。こゝでは二つの大きな功績を残していると思う。その一つは、多数の人材を養成したという事でありまして。ここで修業した上各地の療養所なり病院なりに結核専門家として送つた者は4,50人に及んでおりまして、これ等が中心となつて結核研究に貢献しておるのであります。もう一つの功績はこの10年間に、この研究所からの研究論文の数を読んでみますと600あります。これだけの業績がここから出ています。これ等は皆珠玉的な価値のあるものであります。全部読んだのではありませんから一々の批判は出来ませんが、数において600、各々夫々の発表を研究所7部門の各々について皆さんと玩味して喜び度いと思ひます事は先ず第1部門の物療部門では、早くからレントゲンによる結核の早期診断が行われた事でありまして。恰度これは時勢もよかつたのでありまして、大東亞戦争が始まると同時に(今から考えても身振いする様な健民強兵という様な事が叫ばれて、)誰も彼も戦争の爲に役立つ様になるというのが、國を擧げての騒ぎでありまして、その時にその一翼を担いましたのがこの結核研究所であり、多数の患者や一般の人について沢山のレントゲンを撮りまして、本当の意味における早期診断を樹立しております。この早期診断という言葉は何時の時代にも言われておりますが、その時々科学の水準次第で色々であります。今の様な治せば治おるといふ意味の早期診断というのは今から7,8年前に此處で樹立されたものと信じております。結核は安静と栄養さえあれば治るといふ事を吹聴したのは、此處の研究所でありました。本当に徹底的な安静と栄養を保もてば結核は治り易いものでありまして、この安静と栄養、これは皆様の御承知の所であり、これは医家のみならず一般人の充分知る所であります。結核は治り易いものである、という安心感を國民に與えた業績をこの研究所は持つております。それから予防部門におきましては、ツベルクリン反應の意義ならびにBCGの価値の普及に就て相当に詳しく研究されております。化学療法部門に於きましては、これは一番感心して居る事ですが、結核の特効薬を作つて居らんといふ事でありまして。10年位の間に特効薬を作る位の研究所は、殊に価値の少いものであると考えます。此の点、此處の研究所は非常に慎重であります。こういう風に慎重な態度をとつて居るという事は實際嬉しく思つて居ります。仲々世論には迷わされない。その一つの証拠には、戦後ストレプトマイシン、パス、テイビオンという風な稍特効めいたものが流行つて來ました時に、これに対しても慎重な態度をとり、一步も眞理から遠ざかる様な事をしなかつたのであります。それから、薬品を色々選定し、それらの検査方法、効力判定、批判法、これらを総合しまして慎重の上に慎重を期すという研究態度であります。更に結核の外科部門に於きましては、これはこの結核研究所を世間に有名にさせた一つのものであり、そういうと如何にも素人敷しの様に聞えますが、恰度これは結核外科の発

達する氣運に乗じていたと申しますか、此處が発達すると同時に各地でもずんずん進んでいます。此處の研究所では色々進んで新しい術式を以つて患者の治療に当るといふ重大任務と、新しい有効な外科的治療を開拓して居ります。血清細菌部門におきましては（今、お話しになりました様に）結核菌の本態に就きまして新しい説を樹て結核病学界の大センセーションを起したといふ事は皆さん方の御承知の通りであります。又生化学部門に於きましては、今迄化学を結核に持込んで來るといふ事は少々遠去かつた傾きであります、ここでは率先して、化学を結核に取込んでいる。又將來新しい面が開拓される迄、一步一步大きな期待を以て見て居ります。これは、10年や20年では覺つないかも知れませんが、今までに発表されたる所でも、相当突つ込んだ所迄行つており、將來有望なものであります。それで六つ済んで、もう一つは、これは足掛け3年前から始まつた病理であります。勿論病理部門が開所頭初に無かつたといふ事は不思議な位であります、何處に於きましても病理が第一線に立つて居るべき筈でありました。けれども開設の初めには種々の事情で止むを得ず後廻しになつてはいましたが、幸い3年程前に、始めて本当の姿の病理といふものが現われて來たのであります。（今迄各國で研究されております）病理の理論の中にも矛盾したり、不明の箇所が非常に多く残されている。それで、この病理部では全く新しい白紙の状態に帰り、成るべく多数の実物を捉まえて、これを分析して、一つの眞理を捕らえようとされている事は誠に敬服に堪えない所であります。

これで7部門の功績を第三者の立場から述べたつもりであります。勿論、私の知らないもつと大きな功績があると思います。繰り返して申し上げますが、この研究所は、皆一致團結してやつているといふ事と、非常に慎重にやつている、その爲に此處の発表に就て世人が全く信用するといふ事は10年間に於ける最も総括的な大きな功績であると、この点は我々としても喜んでおります。次の10周年、その次の10周年にもつと大きな功績が続々現われる事を期待して私の話を終ります。

## ● 研 究 と 学 問

京都大学長 鳥 養 利 三 郎

結核研究所の創立10周年の盛大な祝賀式を舉行されまして、その席では、私は立場上、お祝か、御挨拶を致すべきであると思ひます。ところが、今度近藤所長の御親切によりまして、さうゆう挨拶はもう少しよく上手にする人があるから、お前は講演の形に於いて、祝辭に代わるものを、とゆう事でありましたので、全くの門外漢で、結核その他の事は全く分りませんが、大学とか、研究所とか、研究とゆう様な事について、少々許り雑談させて頂く、とゆう事にして、祝辭に代えたいと思ひます。

大学とか研究所とかゆう様なものは、世界各國の、世界の何處の國の人でも、この問題に就いては大体似た様な事を考えるのであります。ヨーロッパへ行つても、アメリカでも、日本でも、大体皆同じ様にやつているのであります。見落しをしている、考え落しをしている、とゆう様な事はありません。アメリカへ行つてみたら、さうゆう日本に無い様な事をして、とゆう事はないのです。人の思ひ附く事、人のする事ですから、皆同じ様な事を考えております。唯、日本の大学とアメリカの大学とで大きな相違のある点、考え方で一つの根本的に違つている点を強いて求めますと、一つ大きな点があります。それは日本の大学では学部とゆうものを持つておつて、文学部、法学部、医学部、工学部、理学部とゆう様に夫々持つております。その分け方は、大体學問を基準にして、医学に関する研究をするものが医学部、文学をやり歴史や哲学を研究するのが文学部、法律をやるのが法学部、物理、数学、化学、その他サイエンスをやる所は理学部、とゆう様に分けているのが日本のやり方ですが、アメリカではさうゆう事は全然やつておりません。全く分け方が違つたのであります。この『違つた』とゆう事が大学、研究所その他の構成と大きな関連を持つている、さう思ふのであります。兎角、日本の學者は偏狹であつて、セクションナリズムだ、総合的でない、外國の學者はさうゆう点がなくて総合的であり、偏見的でないといふますが、さうゆう事をいわれるもとに、学部の考えの違ひが原因をなしている、とゆう事がいえると思ひます。然らばアメリカではどんな風に分けているかとゆうと文学とか歴史とか理科とかゆう風な事は全く考えないで、職業によつて分けているのであります。文学部と理学部は大体就職難があつて、生活が苦しいもんだ、とゆう事はアメリカも同じらしい。その意味から文学部と理学部を一緒に併せて何かと生活に苦しい学部を作つてサイエンス・アンド・アーツといつている。實際、文学部と理学部はなく